# 雜　　報

## 會員動靜

岡山醫科大學教授　柿沼昊作
本俸五級俸下賜
(四月十四日)

臺灣總督府中央研究所技師　森　滋太郎
三級俸下賜
(三月三十日)

敍正五位　　從五位勳五等　森　滋太郎
(四月二十一日)

敍從六位　　正七位　永井政忠
(二月十五日)

岡山醫科大學助教授　石田堅三郎
依願免本官

岡山醫科大學助教授　石田堅三郎
本俸五級俸下賜　(五月五日)

遼陽衛戍病院附陸軍二等軍醫　吉岡總一
補工兵第十四大隊附　(五月十日)

勝力軍醫長海軍軍醫中尉　西田實雄
補第十五驅逐隊軍醫長

第十五驅逐隊軍醫長
海軍軍醫中尉　中村博郷
吳鎭守府附被仰付　(五月十五日

---

○石田堅三郎君　別項の如く今回岡山醫科大學を辭せられたる同君は鹿兒島縣立病院外科部長として就任せられたり

○生馬　茂君　は今般和歌山市本町三丁目に於て開業せられたり

○神田　薫君　は多年廣島縣病院外科に勤務し居られしが今般同院を辭し廣島市鐵町に於て開業せられたり

○三好繁一君　は今般松山市日本赤十字社愛媛支部病院を辭し高松市栗村町に於て開業せられたり

○松田國重君　は今般大阪市南區谷町薄病院を辭し大阪市東成區森小路に於て開業せられたり

○植村吉雄君　は先般岡山醫科大學柿沼內科教室を辭し歸郷中なりしが今般本縣小田郡北木島村に於て開業せられたり

○山崎　磐君　は豫て歐洲留學中の處今般歸朝大阪市港區八幡屋元町三丁目に於て開業せられたり

天田勘七君逝く　君は大正二年岡山醫學專門學校を卒業し陸軍造兵廠火工廠宇治火藥製造所に勤務し居られしが頃日病氣に罹り療養中なりしが醫藥其效を奏せず去月二十七日遠逝せられたり洵に痛惜に堪へず謹みて玆に弔意を表す

**◉學位授與**　沖津亘君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが四月十六日の教授會を通過し五月三日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は次の如し

主 論 文

黃金色葡萄狀球菌毒素ノ研究 (邦文, 獨文抄錄添附)

第1報告 (大正14年11月朝鮮醫學會雜誌第58號ニ掲載)

第2報告 (昭和2年5月朝鮮醫學會雜誌第76號ニ掲載)

第3報告 (昭和2年6月朝鮮醫學會雜誌第77號ニ掲載)

參考論文

1. 胎盤ノ毒性ニ關スル實驗的研究1編 (邦文, 獨文抄錄添附)
(昭和2年2月朝鮮醫學會雜誌第73號ニ掲載)

2. 妊娠中毒症ノ成立ニ關スル一考察1編 (邦文, 獨文抄錄添附)
(昭和2年8月臨牀產科婦人科第2卷第4號ニ掲載)

3. 麻剌利亞ノ婦人科的併發症ニ就テ (邦文)
(大正7年10月近畿婦人科學會會報第7號ニ掲載)

4. 婦人ノ尿道贅肉ニ關スル知見補遺 (邦文)
(大正6年7月近畿婦人科學會會報第4號ニ掲載)

5. 朝鮮婦人ノ腟閉鎖症ニ就テ (邦文)
(大正4年11月醫學中央雜誌第217號ニ掲載)

6. シュナイデルソン氏及ビビール氏併合麻醉法ニ就テ並ニ之ガ242例ノ統計學的觀察 (邦文)
(大正2年9月及ビ10月本會雜誌ニ掲載)

7. 雙腟雙子宮ノ3例並ニ之ガ妊娠分娩ニ就テ (邦文)
(大正2年4月本會雜誌ニ掲載)

**◉岡山醫大外字雜誌の發刊** 今回外字雜誌發刊の機運到來し近日實施せらるることとなり, 林, 遠藤兩教授が編輯主幹に選ばれたり. 依て6月號以後の岡山醫學會雜誌には歐文の原著は總て之を廢し邦文の原著のみとして之に歐文抄錄を附することとす.

因に外字雜誌の投稿內規は當分醫學會雜誌の歐文原著の從來の內規に準ずる由. 且醫學會とは關係なく岡山醫大の經營に屬するものなり.

外字雜誌の發刊は一は原著輻輳に因り提出後半年以上を要する爲めと, 一は歐文印刷の高價なるに依り醫學會の經費節約の意味もあり, 且歐文原著のみを外人に示し得る便宜等に因るものなり. 之に就ては田中學長の盡力大なるを謝す.

**◉第9回岡山皮膚科泌尿器科地方會開催** 來る6月9日(土曜)午後1時半より岡山醫大皮膚科外來診察所にて開催す. 閉會後行餘館に於て懇親會開催の豫定なり.

## 近 刊 紹 介

### 倉敷中央病院年報第2號

本年4月發行にして平井氏の假稱所謂腦膜炎患兒の腦脊髓液中鉛含有量に就て及び右川氏の局所過敏症の病理組織的研究を初めとし, 原著26篇を掲げ, 研究會報並に同病院患者の統計を擧げたり. 中にも原著には有益なる論文の發表ありて印刷, 體裁共に優美なるものなり.